



新型コロナ禍での新たな取り組みに挑戦

市原 美幸

澄んだ空気ときれいな冬の星空が、コロナ禍で窮屈な心をいくらか和ませてくれます。向寒の折、会員、患者会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。



2020年明けの頃は想像もなかった新型コロナウイルスの感染拡大により、2月ごろから生活が一変しました。

当会の10月以降の活動も予定通りにはいかず、11月の患者会はコロナ第3波のあおりを受け再び中止となりました。このような中、11月恒例の協働まつりは、オンラインによる催しとなりました。当会では、協働まつり動画制作担当の方の協力により、会の紹介を動画で配信し、クイズを出す等、工夫して情報を発信してきました。

動画は、当会ホームページやYouTubeからも視聴できるよう配慮いただきました。がんケアや会の活動についてコンパクトにまとめています。よろしかったらご覧ください。(素人、手作り感満載です！)

:

12月の講演会については、チラシの配布や府中市広報などに掲載し、準備を進めていく間に第3波が押し寄せ、講演会を開催するか中止とするか、ぎりぎりまで検討しました。講師のご来場での講演が確認できた事で、一人でも多くの方に参加して頂きたく急遽、オンラインと同時に開催いたしました。

初めての試みで、周知も遅くなり、会員の皆様には間近になってのご案内のはがきをお送りいたしましたが、残念なことに差出人の記載がなく、ご不明な点がありましたことをお詫びいたします。

当日の講演会は「人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)をはじめませんか」というテーマで、講師:中村ゆかり先生、山澤明子看護師(調布東山病院)により、お二人の人柄があふれる、優しい雰囲気の中、無事に開催することができました。約1年の間に新型コロナ禍で生活が一変する状況にあり、病や、命、望む生活について逆に考えるきっかけとなった事、そして日常の会話の中で何かのきっかけの時(周囲のイベント、健康診断、知り合いの病気や別れ等)に思いを分かり合える会話が出来ると良いですね、とおっしゃっておられました。詳細は講演会報告を是非ご覧ください。

当会の今後の活動の取り組みにおきましても新型コロナによる影響は大きく、今後の感染拡大状況に合



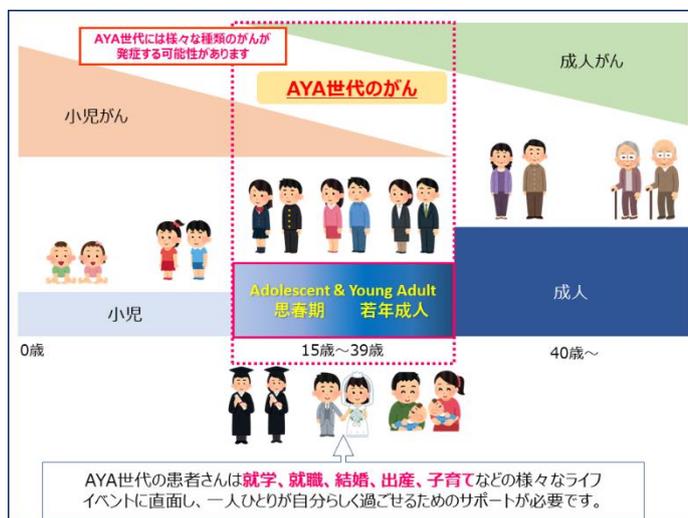
「AYA世代のがん患者が抱える問題と対策」

稲津 憲護

AYA世代とは、15歳から40歳未満の若年成人を指します。若い方々でがんに罹る事例は多くはありません。しかし、若い時に白血病や乳がん等が発症した方々にとって、治療の悩みだけではなく、家族や子育て、療養しながら自立した生活ができるか、仕事の休職など、現状と将来への不安も同時に抱えることが多く、精神的にも非常に追い詰められます。

「府中がんケアを考える会」がアンケートを行ったところ、若い方から社会的なサポートを受けられるのかどうか不安との声があり、府中市として、どのような支援があるのか調査しました。

残念ながら府中市では、AYA世代に配慮した制度はありませんでした。一般的には保険診療の医療費の自己負担分を一定の限度額までにおさえる「高額療養費制度」や、会社等に勤める方が療養のために休職する場合の収入を保障する「傷病手当金」があります。



がんセンターホームページより

しかし、いくら経済的な支援があったとしても、部屋の掃除や洗濯、食事の用意、買い物等は、自分でやるか、家族の手助けがないと、大変な状況になります。特に40歳未満の方々は介護保険が適用されず、訪問介護サービスも受けられないため、様々な生活面での悩みを抱えることになります。

そこでAYA世代のがん患者への支援を行なっている自治体を調べたところ、兵庫県明石市では「若年者在宅ターミナルケア支援事業」を行なっており、訪問介護や福祉用具の貸与を行なっています。こうした施策は、明石市だけではなく、10以上の自治体で実施されていた事が明らかになりました。

今後、府中市としてAYA世代のがん患者支援の重要性を認識していただき、具体的な支援策を講じるよう、当会としてどのように取り組むか検討する必要があると考えます。

AYA世代のがんの特徴(がんセンターホームページより)

AYA世代は、15歳から30歳代と対象が広く、年代によって状況が異なることから、15~19歳をA世代、20歳代以降をYA世代として分けることがあります。日本では、毎年約2万人のAYA世代が、がんを発症すると推定されています。AYA世代でがんを発症する人は、1年間でがんを発症する人100人のうち2人程度です。年代別にみると、15~19歳が約900人、20歳代は約4,200人、30歳代は約16,300人です(2017年)。

AYA世代には、子どもから大人への移行期も含まれるため、小児で発症することが多いがんと成人で発症することが多いがんの両方の種類が存在します。そのため、AYA世代に多いがんの種類は、年代によって違いがあります。15~19歳で発症することが多いがんは、小児期と同じように、白血病、生殖細胞から発生する胚性細胞腫瘍・性腺せいせん腫瘍、リンパ腫、脳腫瘍、骨腫瘍などです。しかし、20~29歳では、胚細胞腫瘍・性腺腫瘍、甲状腺こうじょうせんがんが白血病よりも多く、30~39歳では、女性乳がん、子宮頸けいがん、大腸がんなど成人に多いがんが多くなります。

リモート環境に関する調査

10月にご協力いただいた「ネット環境に関するアンケート」はがきにご返送いただきましてありがとうございます。急なお願いにもかかわらず、38名もの回答をいただきました。回答内容の報告をいたします。

回答総数 38

通信機器					リモート経験		接続環境			参加について		
携帯	スマホ	PC	アイパッド	なし	ある	ない	有線	WIFI	その他	したい	したくない	わからない
14	28	22	5	2	17	17	7	16	4	14	10	10
36.8%	73.7%	57.9%	13.2%	5.3%	44.7%	44.7%	18.4%	42.1%	10.5%	36.8%	26.3%	26.3%

通信機器については2～3の機器を所有の方がいますので、合計は38になりません。接続環境とはインターネットにどのように接続されているかという質問です。接続できる時間に影響する場合があります。

その他に「これからは(年齢的に)無理」、「設定がわからない」というご意見がありました。

機器の所有から見ると7割以上の方がリモートでの参加が可能かと思われます。「経験がない」、「どうしていいかわからない」のが参加への壁になっているようです。

今回使用した「ZOOM(ズーム)」はリモート会議の手段としては一番簡単なものです。次回までにはわかりやすい使用方法(スマホやパソコンへのインストール)をお知らせします。家族、友人など複数を対象とした個人的なお話にも使えますのでインストールしておくと思います。

今回はコロナ下での緊急の対処とご理解ください。会の考えとしては一堂に会し、勉強しあうのを原則としています。ただ体調、時間などの都合により会場に来られない方にとってズームは有効な方法です。病院からでも参加できます。今後は実際の現場、リモートを組み合わせた活動を充実させていきます。

会計よりのお願い

総会も開けない中、会員の皆様にあつては会費のご送金有難うございます。心より感謝申し上げます。

前回納付いただけなかった方には振り込み票を同封いたしますので、なにとぞよろしくお願い致します。

2021年の予定

予定変更、中止になる可能性があります。いずれの催しも当面参加人数に制限があります。できる限り事前の確認、参加予約をお願いします。

日時	行事	会場
1月31日(日) 午後1時30分	患者会	プラッツ 第6会議室
3月28日(日) 午後1時30分	患者会	プラッツ 第6会議室B
5月23日(日) 午後1時30分	患者会	プラッツ 第6会議室
6月27日(日) 午後1時30分	定期総会・講演会	プラッツ 第2会議室

編集後記

12月講演会は直前まで開催が決まらずご迷惑をおかけしました。東山病院のお二人の講師には感謝がありません。身近にもコロナ感染者が出、今年もうまく運営できるか心配です。保健所はこの10年余りで4割減、「公共」たる医療への軽視の結果かなとも思います。現場医療関係者にもただ感謝。

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄
電話 090-7729-4429 Mail: ktakechi@fuchugancare.org